

平成 23 年 8 月 15 日

栗東市長
野村 昌弘 様

栗東市議会
栗東市民ネットワーク 代表 林 好男
栗東再生 代表 櫻井 浩司



栗東西図書館の存続についての申し入れ

市の最重要課題であります財政の危機的な状況の中で、現在職員一丸となり健全化に向け取り組まれているところです。私たちもまた、市財政の危機的状況に対応した中で、市民の皆様理解を求めながら、セーフティーネット事業など市民の生活を守る基礎的な施策を堅持しながら財政の健全化に取り組んで参りました。

市は、中長期財政見通しの中で今後も財源不足が生じることから、今年1月に「(新)集中改革プラン」(素案)が示され、その中で西図書館の廃止を挙げられています。また、6月定例会での個人質問の中でこの問題が取り上げられたことを受け、6月22日の京都新聞・中日新聞の中で、「西図書館廃止も視野」という市民に大きな不安を持たれるような記事が掲載されました。

JR 栗東駅東側の土地区画整理による都市基盤整備により、急激な人口の増加とともに、教育施設等の公益施設の整備のなかで、公共公益サービスのあり方について検討の結果、平成18年2月に西図書館を開設されました。その時の「栗東駅前公共サービス市民検討委員会」では、①図書館機能、②市役所出張所機能、③ファミリーサポートセンター機能、④市民活動支援機能の導入が提案されています。その中のひとつとして大きな期待とともに西図書館が開設されたのです。

西図書館は、駅前と言う利便性とともに、子育て世代の多い地域の中にあって、子どもたちの就学の基礎となる読書推進の最適な場であり、移動図書館が廃止された今、その利用度も大きなものとなっています。また、生涯学習の基盤となる情報交換とともに、市民の憩いの場所へと成長してきました。図書館運営の中でも職員一丸となり創意と工夫を凝らし運営にご助力いただく中で、2008年度の貸し出し冊数をみても、全国の6~8万人規模の都市でトップの貸し出し冊数を誇り、その半数近くを西図書館が有しています。

このように、西図書館の設置目的はこの5年間で大きく前進し、市民に親しまれ将来への期待の大きな施設となりました。その陰で西図書館廃止という情報が表面化して以来、市民の「廃止」に対する不安が日増しに高まり、「存続」に対する願いが頂点を迎えています。私たちもまたその渦中にあり、行政に対する中で襟を正した判断をしていかなければなりません。

よって、市の事業を見直す中で、財政の健全化に向けて慎重な議論がなされているところですが、創意工夫の中で、西図書館の存続を前提とした議論がなされますようここに要望いたします。